

京都アイディアベーカリー

Kyoto Idea Bakery

-市民交流による集合知の醸成-

風間ゼミナール アイディアベーカリー班

北村航基 井上晋太郎 瀬川幸加 佐々木菜那 土本一花 松本理世

2025年12月14日

集合知

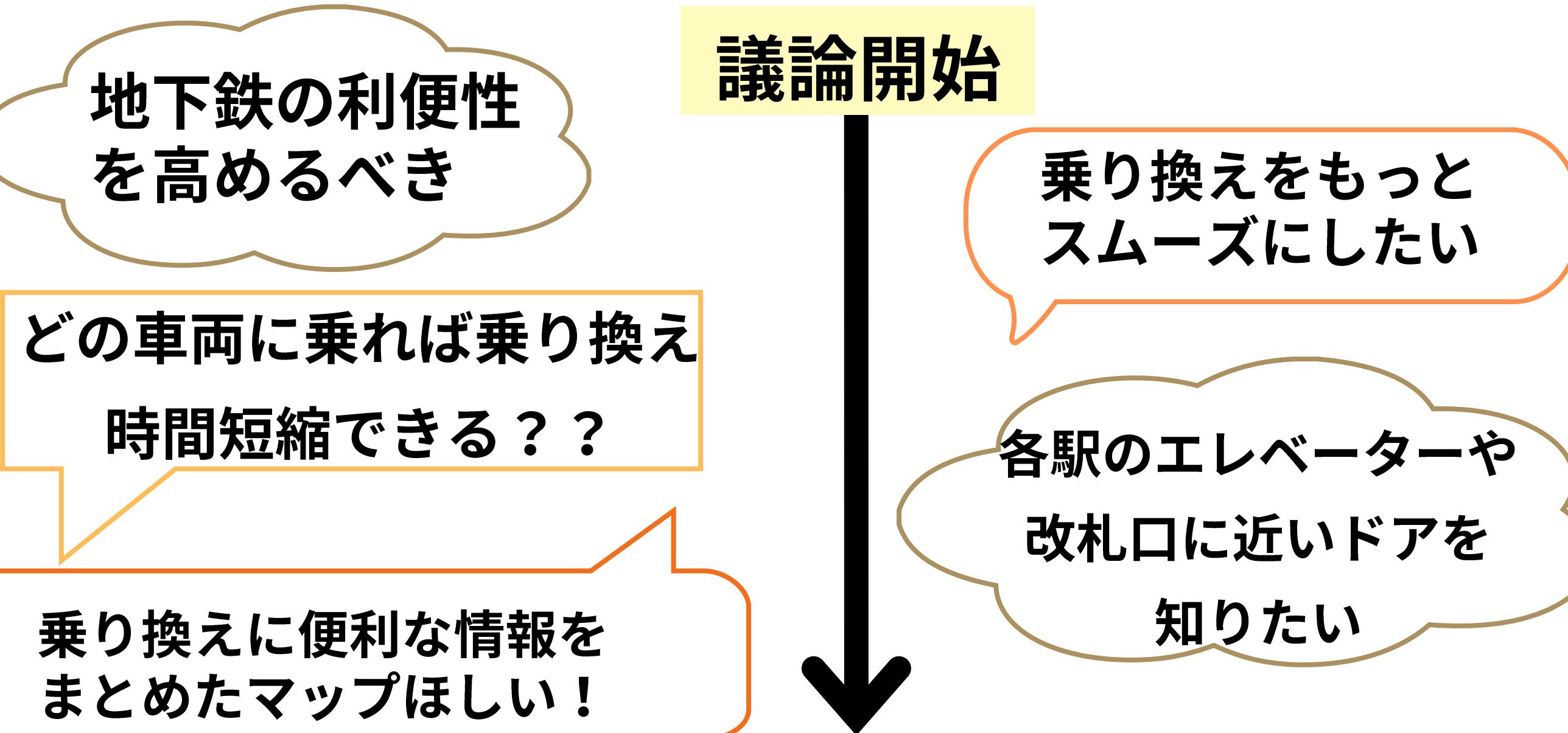
多様な視点が交わることで、
単独の判断を超える知が生まれる過程



米・ジャーナリストJames Surowiecki

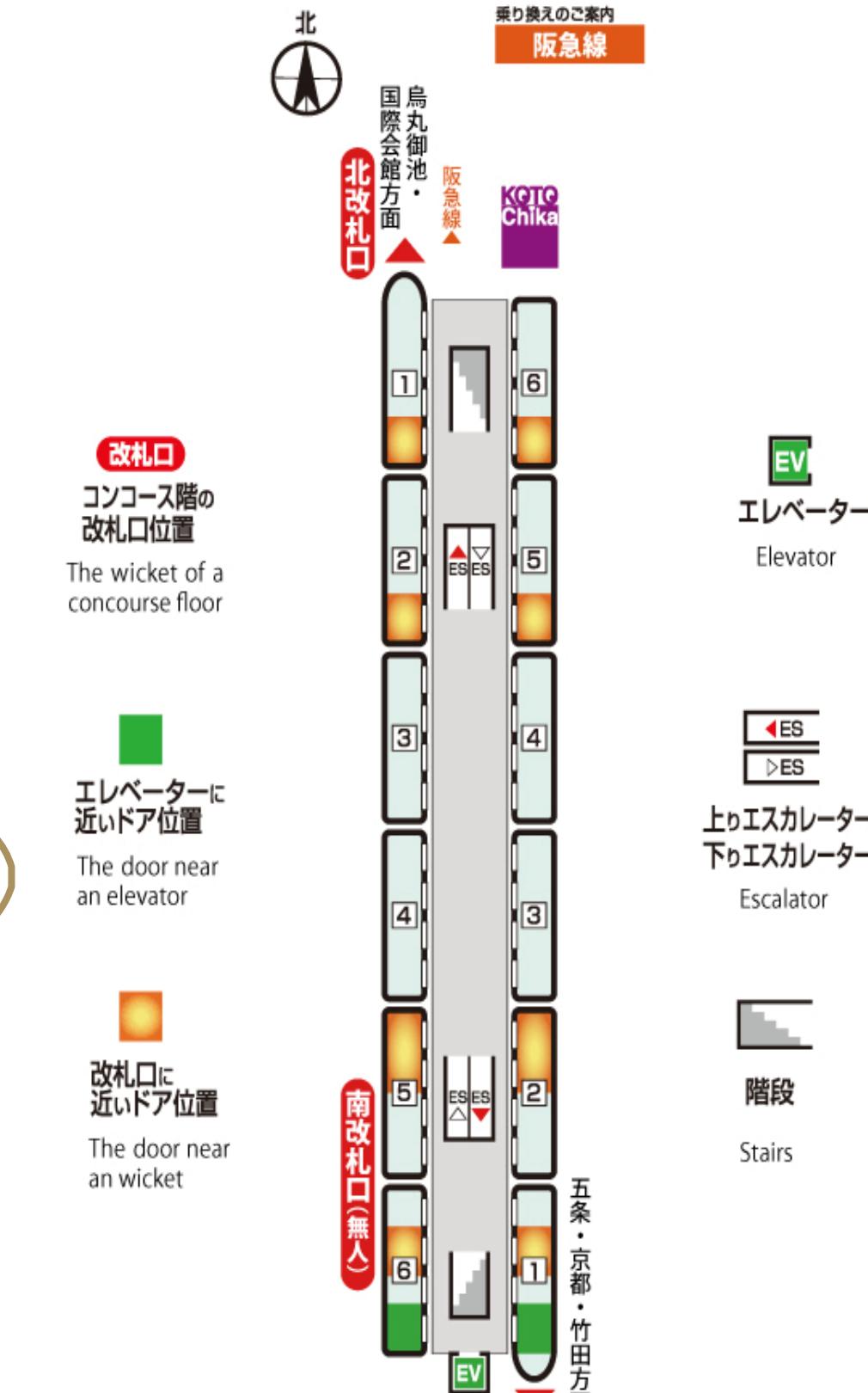


公共交通機関の利用者を増やすための 地下鉄便利マップ「ドアちかマップ」



「ドアちかマップ」の設置

市民の議論が実際の交通改善につながった



01

問題意識

02

現状分析

03

政策提言

04

効果と展望

01

問題意識

集合知の重要性

対話で生まれた
多様な発想



政策を検討する際の
視野が広がる



より現実に即した
政策へと改善



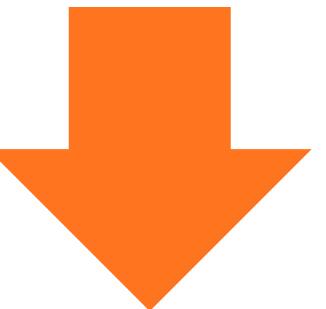
問題意識

現状分析

政策提言

効果と課題

集合知は政策の「質」を
高める大事な要素



集合知が生まれ活ける
市政参加制度が重要



京都市の市政参加制度



問題意識

現状分析

政策提言

効果と課題

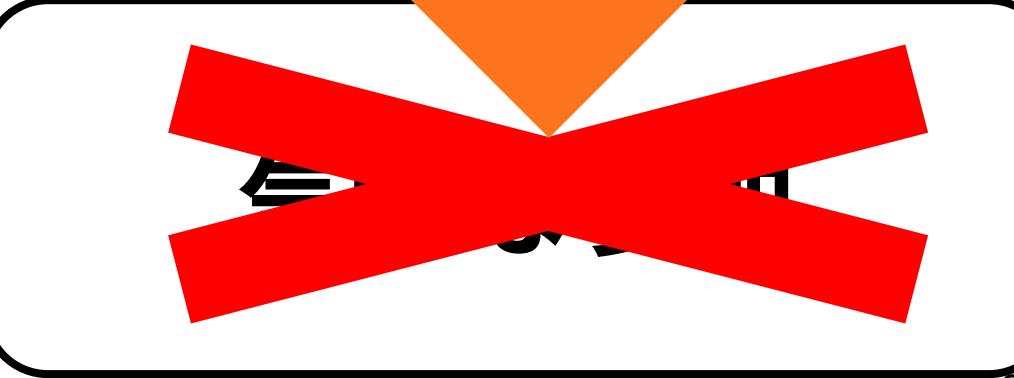
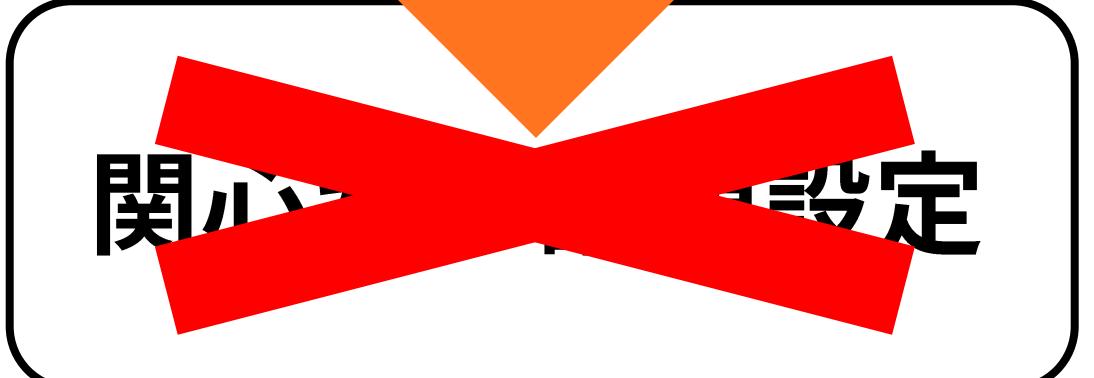
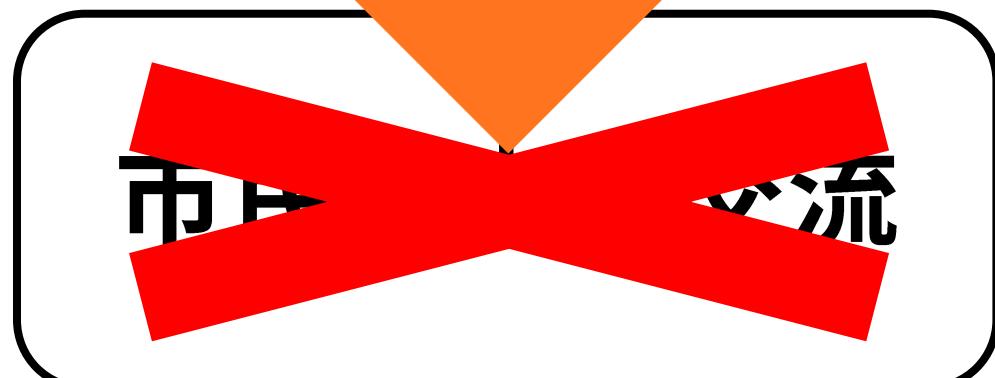
既存制度の集合知形成の限界

京都市政参加制度

市民の声を
吸い上げる制度
ex.パブリック
コメント

市政について
議論する制度
ex.審議会

まちづくりに
参加できる制度
ex.まちづくり
インターナン



問題意識

現状分析

政策提言

効果と課題

既存制度の集合知形成の限界

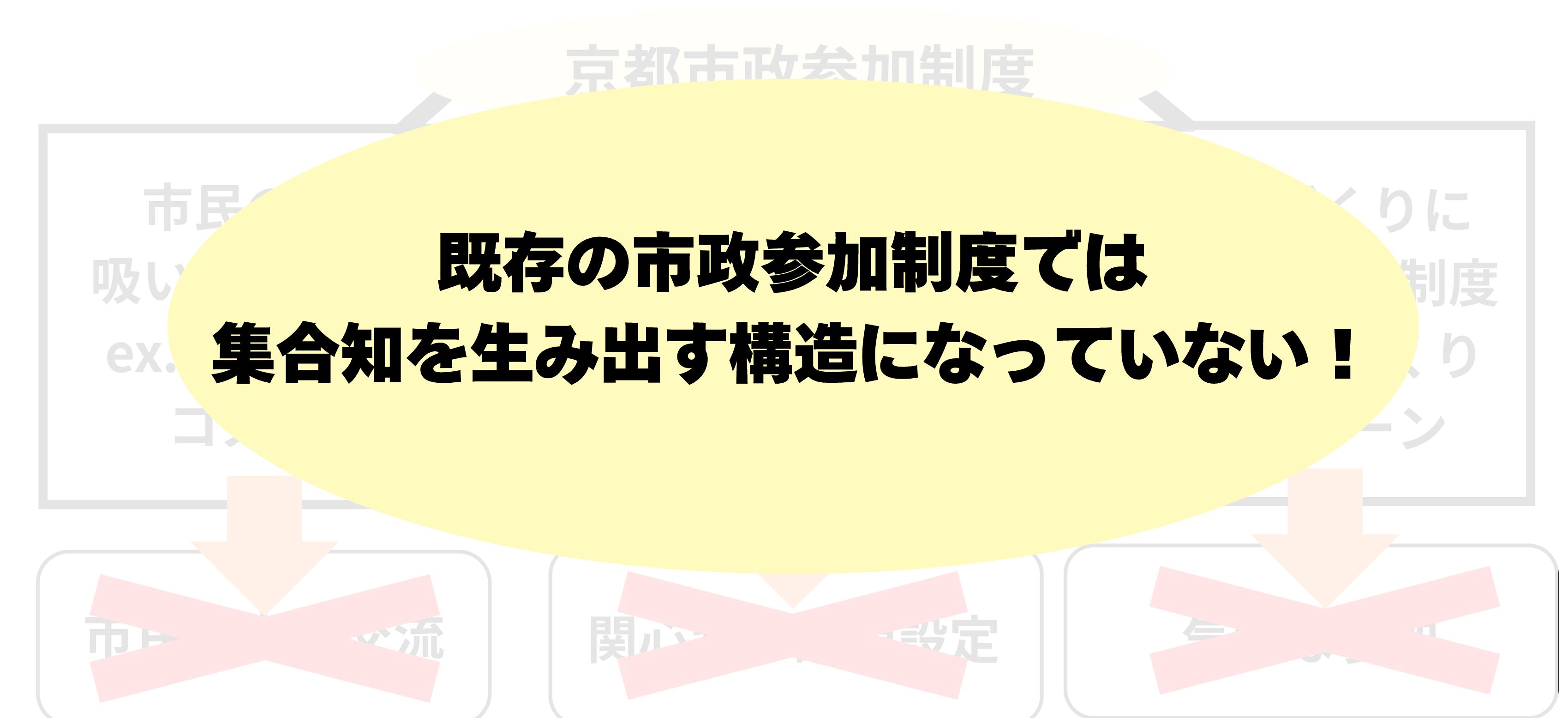
既存の市政参加制度では
集合知を生み出す構造になっていない！

問題意識

現状分析

政策提言

効果と課題



02

現状分析

京都市未来まちづくり100人委員会

市民主体で政策のテーマ設定から実施まで行う
まちづくりにかかる取り組み



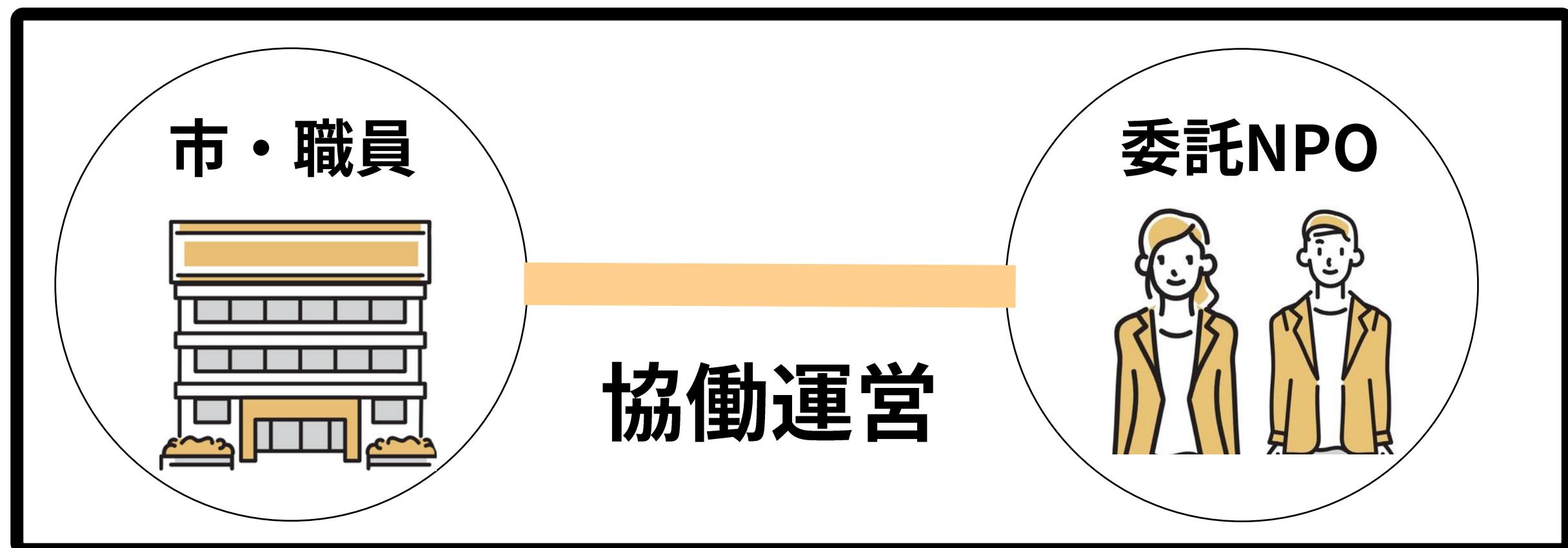
2008年9月にスタート

公募と行政・NPOの推薦によって
集まった100人程度の人々が参加

1~5期までの約7年間行われた

ヒアリング調査

京都市文化市民局地域自治推進室
2025 11/13



NPOの
重要性



市民参加係長
福本純一氏

NPOは企業よりも市民に近く、
行政だけでは作りにくい柔らかい雰囲気や
対等な関係性を形にできる

問題意識

現状分析

政策提言

効果と課題

100人委員会の課題点

1. 参加のハードルの高さ

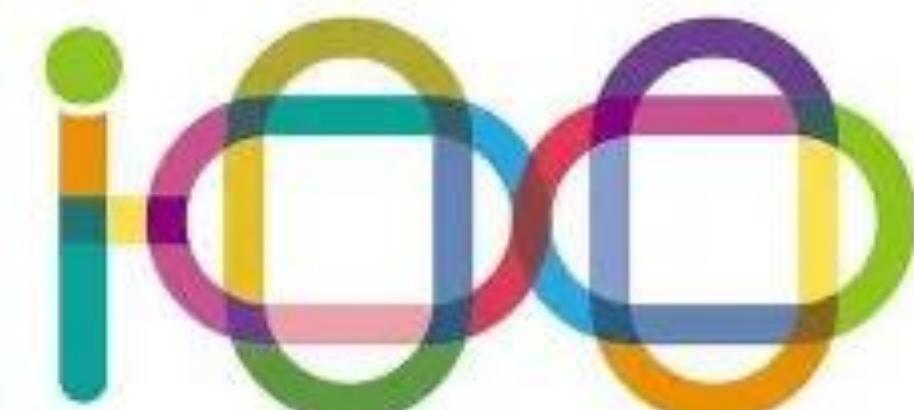
長期の任期かつ継続義務、議論から実施まで市民が担う仕組みが負担となり、参加と継続が困難に

2. コストの高さ

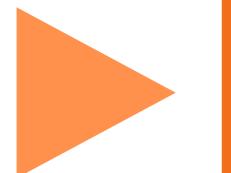
継続には行政コストがかかり、長期的に制度として維持することが難しい



2015年に終了



京都市未来まちづくり
100人委員会



気軽に参加でき
継続が可能な仕組み
が必要！

問題意識

現状分析

政策提言

効果と課題

「共食」



オックスフォード大学
実験心理学部
Robin Dunbar

同じ時間・場所を共有し、
リラックスして食事と対話を楽しむこと

社交的な食事が
社会的な絆を深める上で
重要な役割を果たしている

共食の重要性

心理的ハードルの低下
年齢や立場を超えたフラットな対話を生み出す

Detroit Soup



2010年2月～
アメリカ・ミシガン州デトロイト

【概要】

食事を囲んで課題・アイディア共有
→投票し、選ばれたプロジェクトを支援

【運営】

NPO法人Build Institute

【目的】

地域の新しい起業家を発掘・サポート



仕組み

01



プレゼンター
がアイディア
共有

02



投票者
同士で対話

03



良いと思う
アイディア
に投票

04



最多
得票者に
賞金授与

共食によって参加・議論のハードル低下

→多様な市民の参加を促進

問題意識

現状分析

政策提言

効果と課題

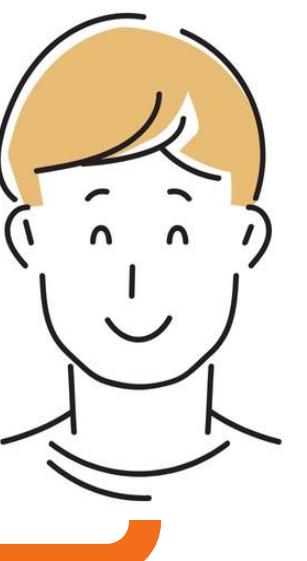
ヒアリング調査



SAIJO SOUP 実行委員会
2025/11/24

食べ物があることで
自然に会話が生まれる
→議論のハードル下がる

食べ物があるから
参加したいとの声
→参加のハードル下がる



現会長 山下氏

問題意識

現状分析

政策提言

効果と課題

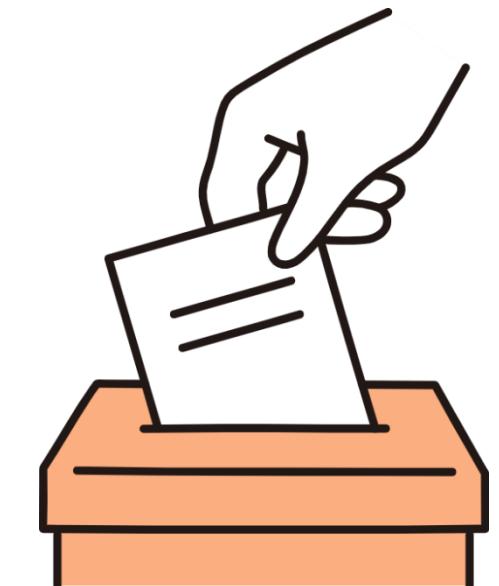
SOUP形式の有効性

共食を通じた交流

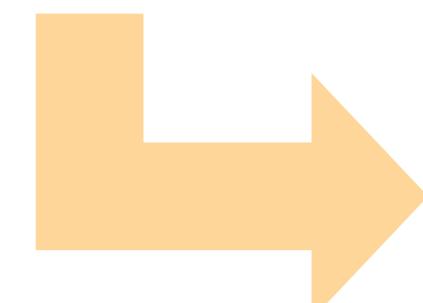


提案内容への評価に影響

投票



その場で交わった
知識や価値観が集約



集合知を生み出す

問題意識

現状分析

政策提言

効果と課題

現状分析から

課題



市民交流の不足



自由なテーマ設定
ができない



気軽に参加できない

先行事例の有効性



100人委員会のNPOと連携した雰囲気づくりの工夫



Detroit Soupの共食による心理的ハードルの低下

問題意識

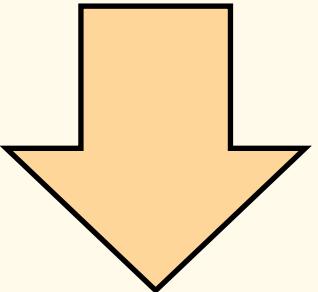
現状分析

政策提言

効果と課題

京都市には...

市民が**自由に意見交換できる場**の設置



そこから生まれる**集合知**を
活かす市政参加制度が必要！

03

政策提案

現状の課題解決



先行事例の利点

京都アイディアベーカリー制度

を提案します！

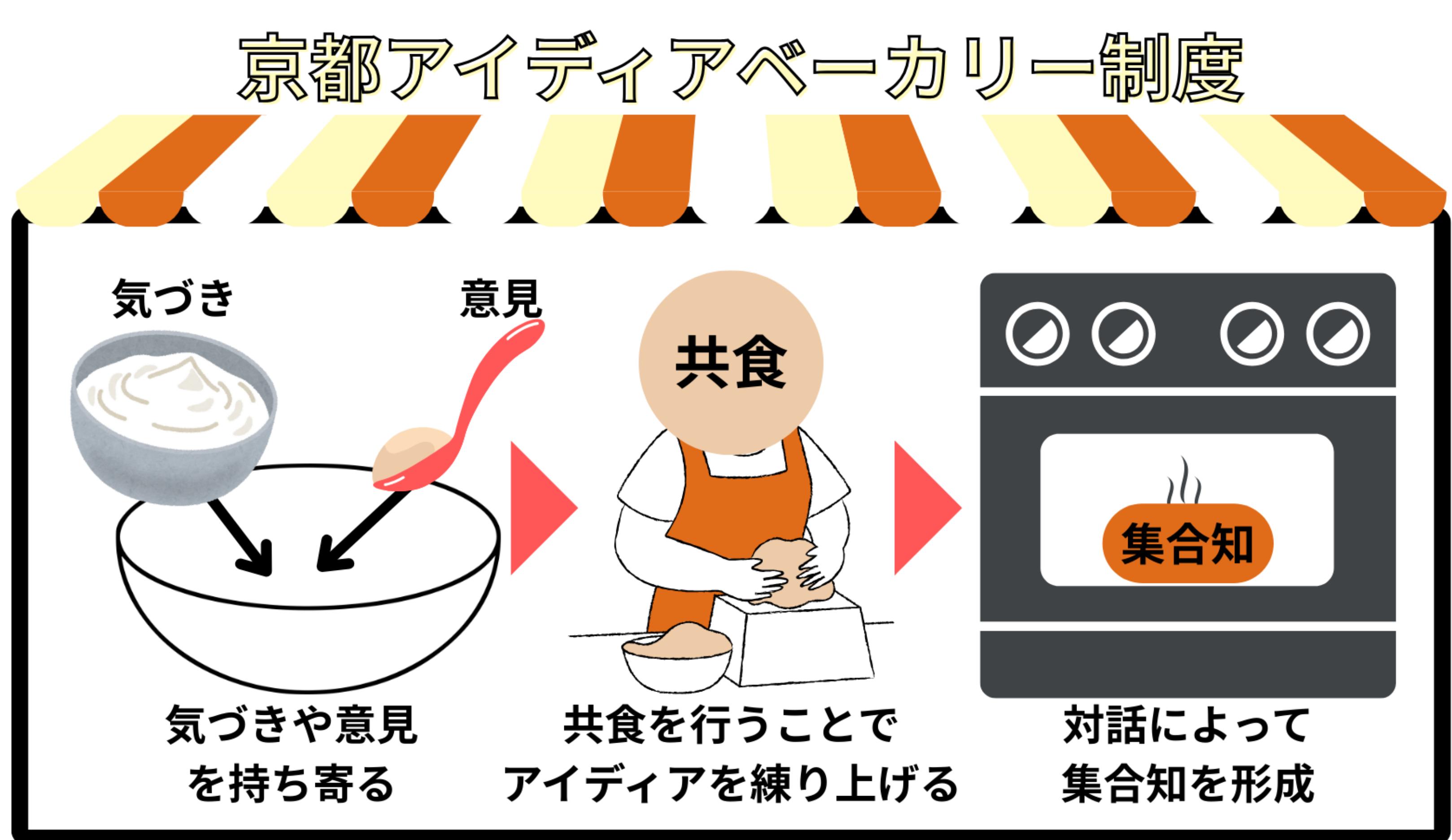


問題意識

現状分析

政策提言

効果と展望



問題意識

現状分析

政策提言

効果と課題

京都アイディアベーカリー 概要

2025/11/8
梅小路公園



[場所] 人が集まる場所

[開催頻度] 月1回・定期開催

[参加費] 300円（パン代）

[募集方法] 京都市HP
(SNSも活用)

パンを使う理由



京都市はパンの街

- ・2021~2023年の平均年間消費支出金額
全国1位 (39,257円)
- ・2021年人口10万人当たりのパン屋数 **全国5位**
(総務省統計局家計調査より作成)



市民に深く根付いた食文化

問題意識

現状分析

政策提言

効果と課題

スープではなく、パンを使う理由

スープの場合



- ・調理に火が必要
→冷めると満足度下がる
- ・余ると廃棄のリスクも

パンの場合



- ・特別な調理不要
- ・片手で食べられる
- ・余っても持ち帰れる
- ・多くの種類を提供可能

問題意識

現状分析

政策提言

効果と課題

当日の流れ

1



グループ
を作る

2



「日常の気づきや課題」
というテーマで
パンを食べながら議論

3



発表 &
投票

問題意識

現状分析

政策提言

効果と課題

イベント後の流れ

問題意識

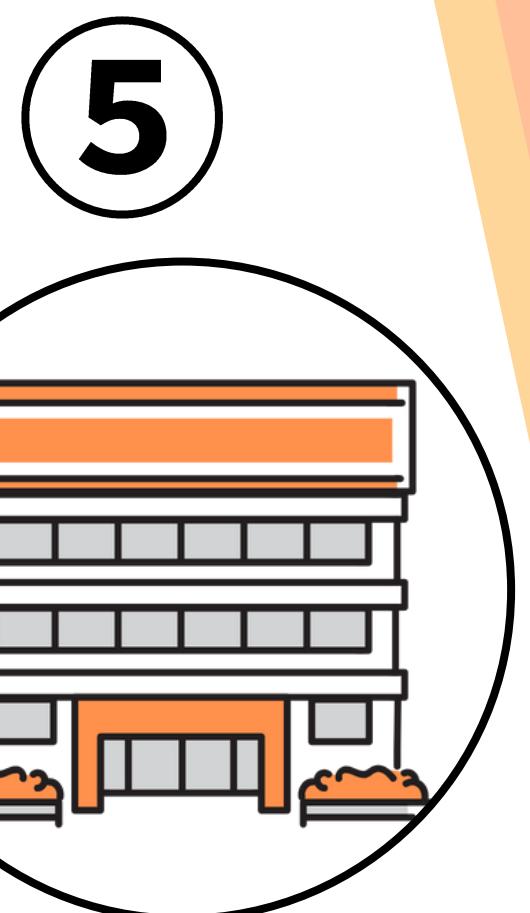
現状分析

政策提言

効果と課題



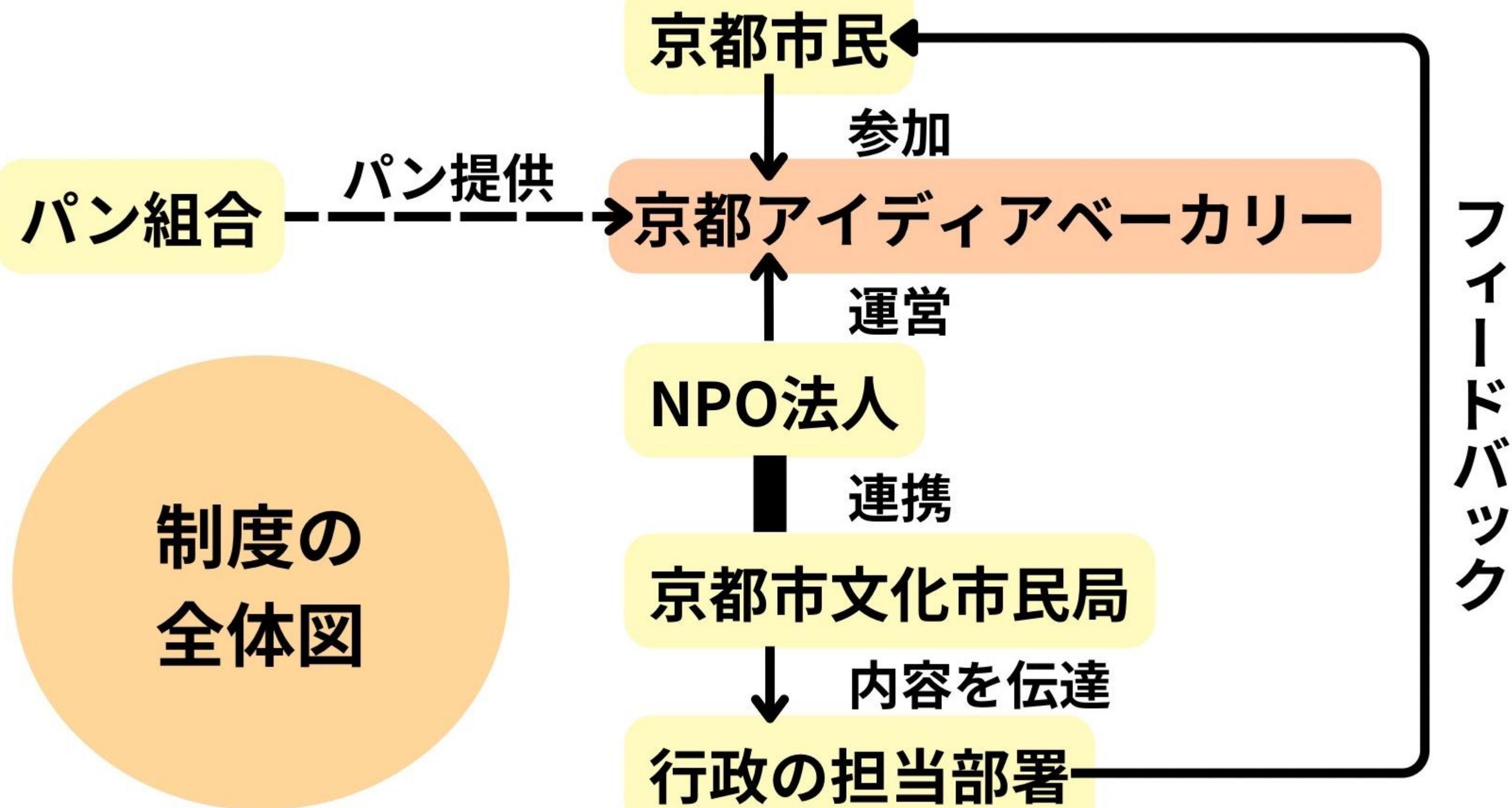
議論全てを
音声テキストマイニング分析
→定性データを客観的に把握



行政に
提出



フィード
バック



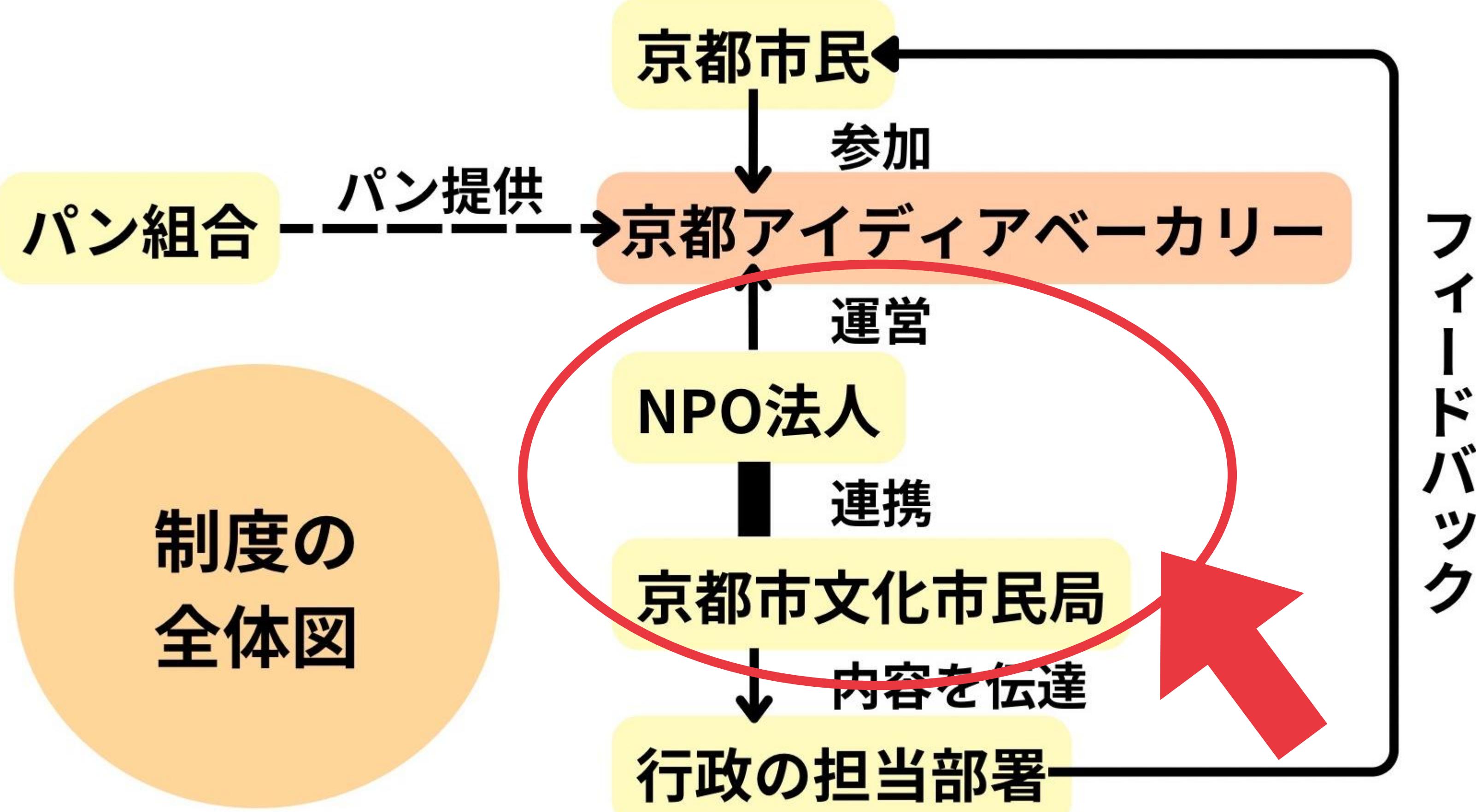
問題意識

現状分析

政策提言

効果と課題

03 政策提言



問題意識

現状分析

政策提言

効果と課題

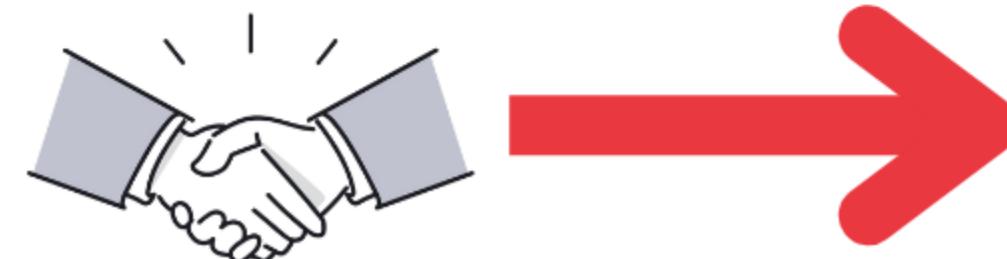
フィードバック

運営主体について

京都市文化市民局

協働

NPO法人



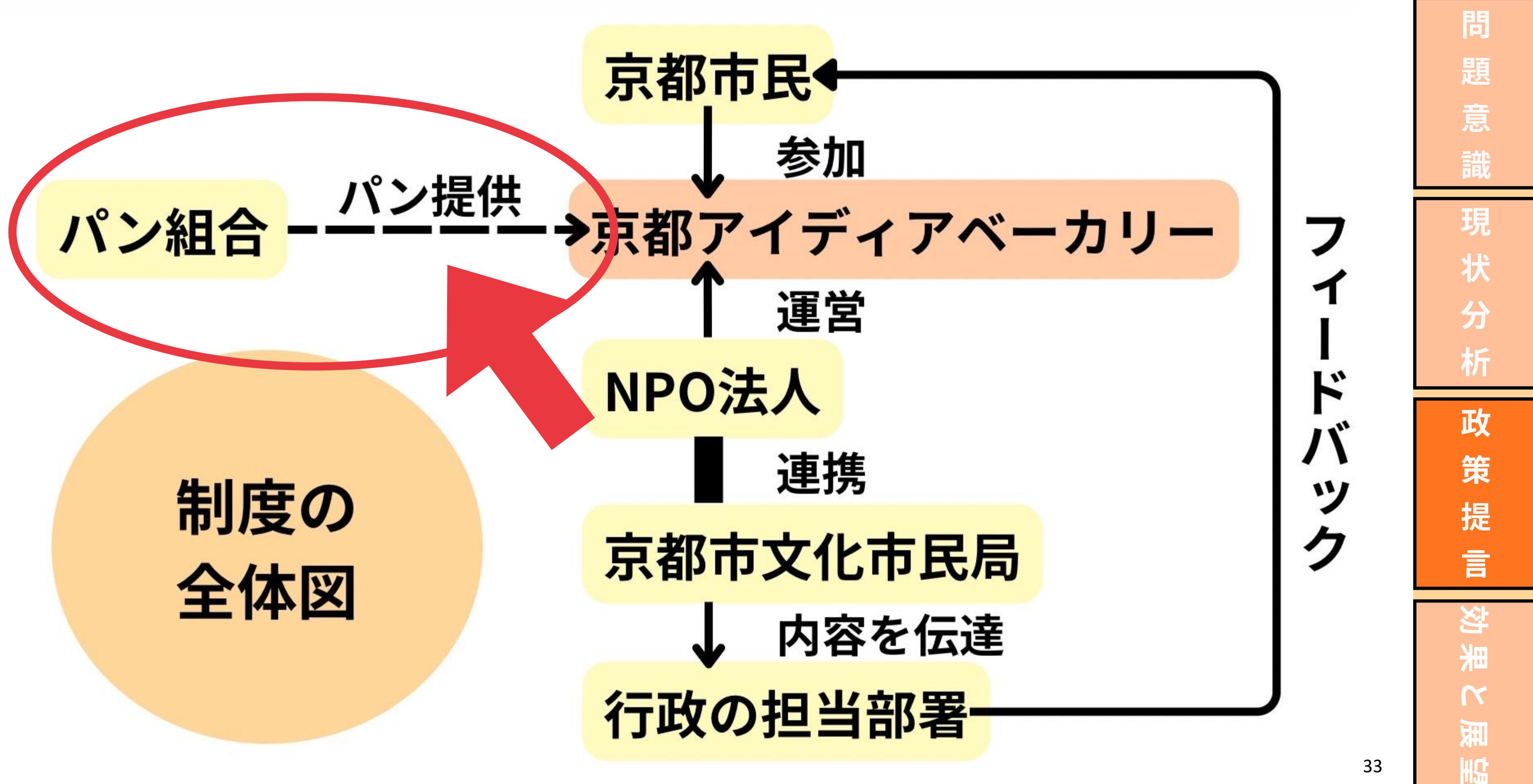
制度の実効性 &
継続性が高まる

NPO法人の候補：NPO法人場とつながりラボhome's vi、

京都NPOセンター

→ 「100人委員会」などで対話の場づくりを担った実績あり

03 政策提言



パンの調達について

京都市が京都府パン協同組合との
自主協定を締結

【自主協定】

行政と企業などが地域の課題解決に向けて
協力することを取り決めた、任意の協定のこと

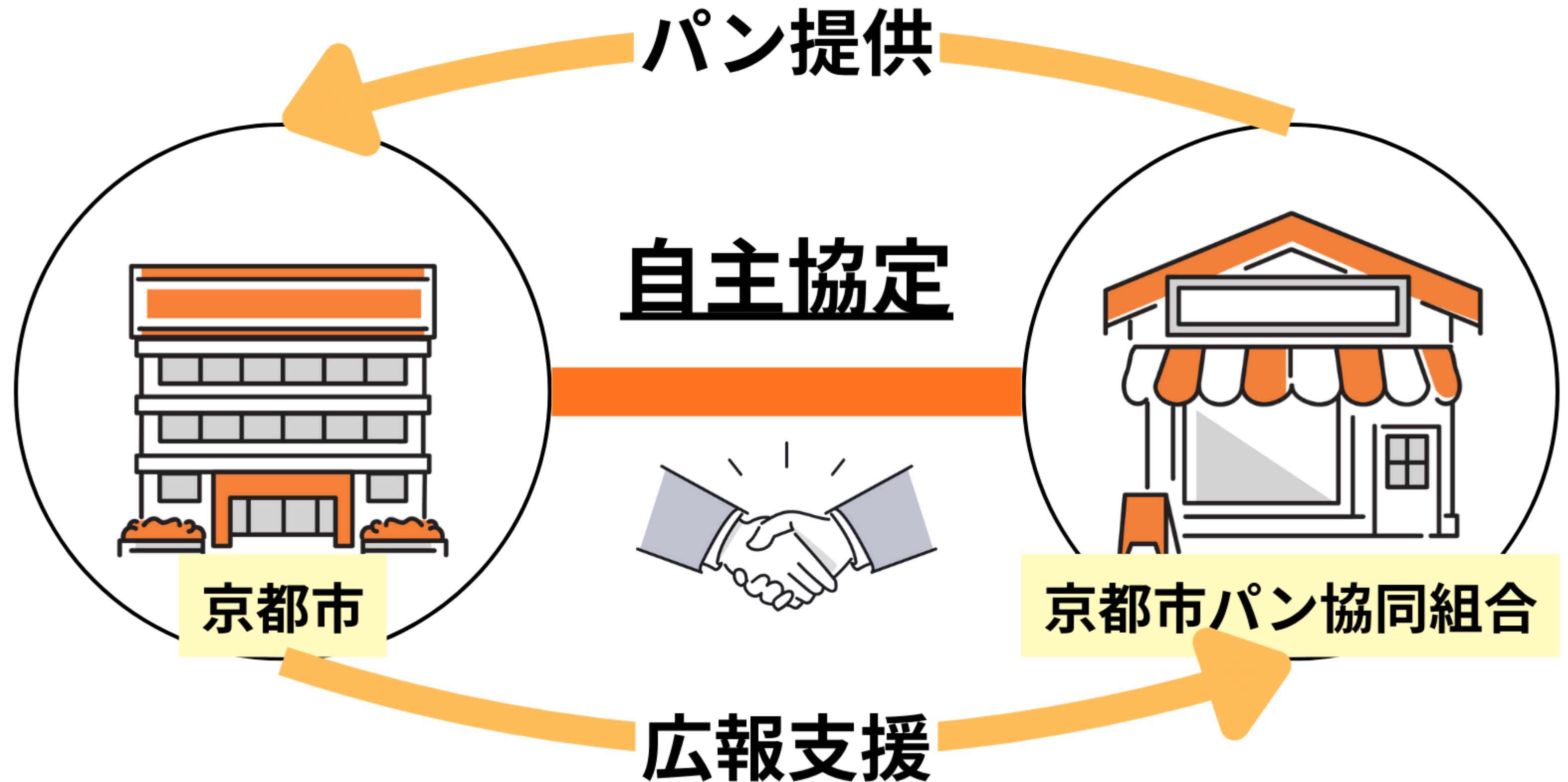
問題意識

現状分析

政策提言

効果と課題

パンの調達について



問題意識

現状分析

政策提言

効果と課題

実証実験

【目的】

対話を通じた集合知形成の検証

- ①共食しながら対話を実施
(10/17・11/16)



(@鴨川デルタ 10/17開催)



(@京都御所 11/16開催)

- ②語句の関連性や
議論の過程を分析

KH Coder



問題意識

現状分析

政策提言

効率と適応

議題：京都の防災

地震経験や
知識の共有

避難所が分からぬ

投函チラシで初めて知った！

議論開始

京都は下宿学生、
観光客多い

大学で聞いた防災の話
役に立った！

結論：行政が市民や観光客が受動的に防災情報を知る
機会を増やすべき

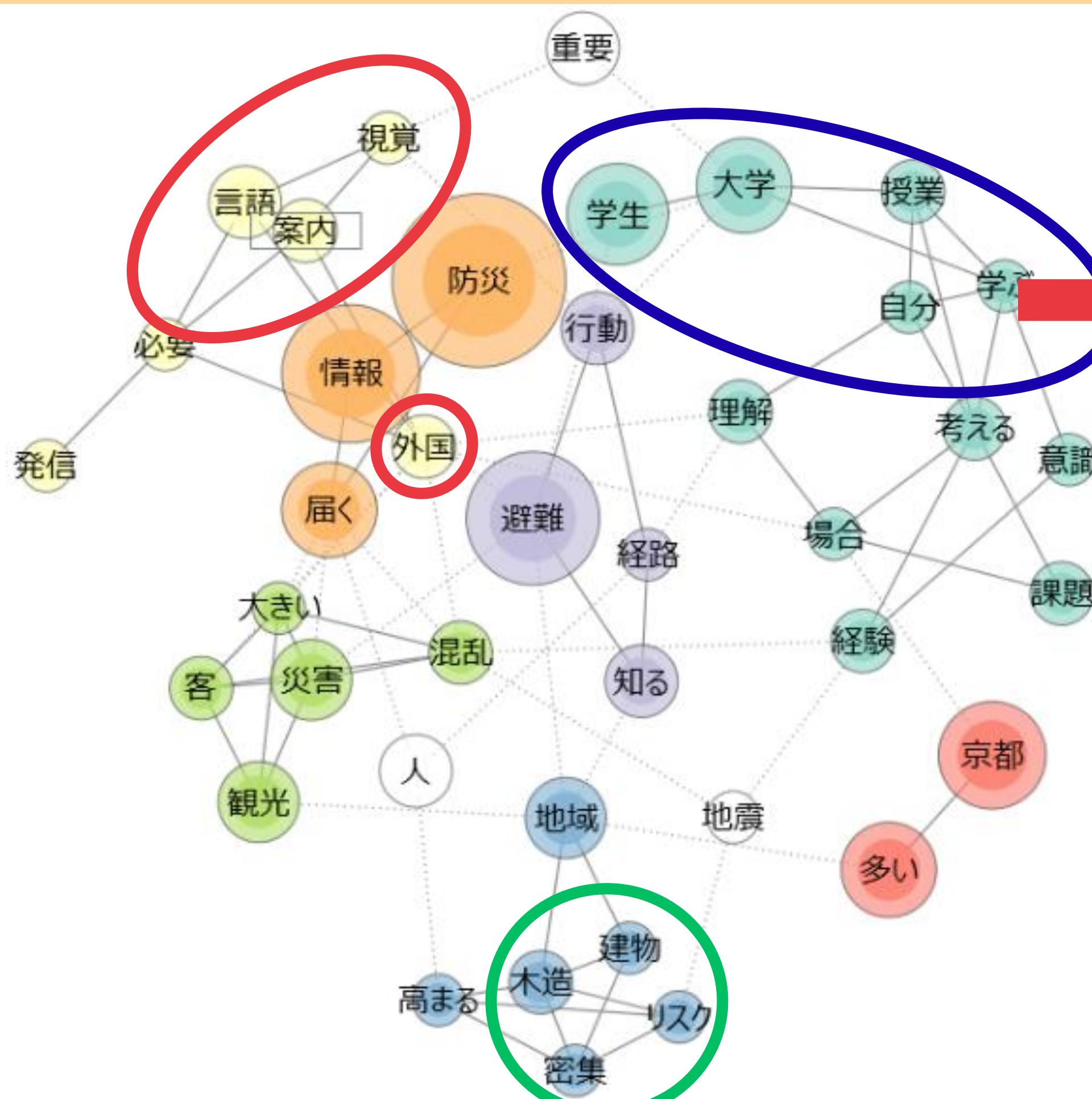
問題意識

現状分析

政策提言

効果と課題

03 政策提言



結論:
行政が市民や観光客が
受動的に防災情報を知る
機会を増やすべき

テキストマイニング
により集合知形成を
客観的に示せる

問題意識

現状分析

政策提言

効果と課題

実証実験から確認できたこと

市民の対話から
集合知が形成できる

- ・テキストマイニングの利用

→集合知形成の流れを
客観的に示すことができる

問題意識

現状分析

政策提言

効果と課題

04

効果と展望

政策の効果

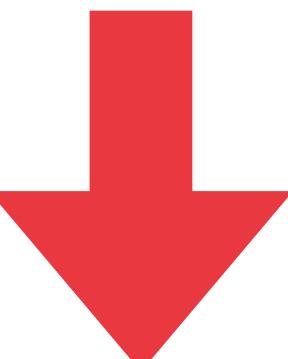
①市政参加が促進され、

多様なアイディア創出を実現

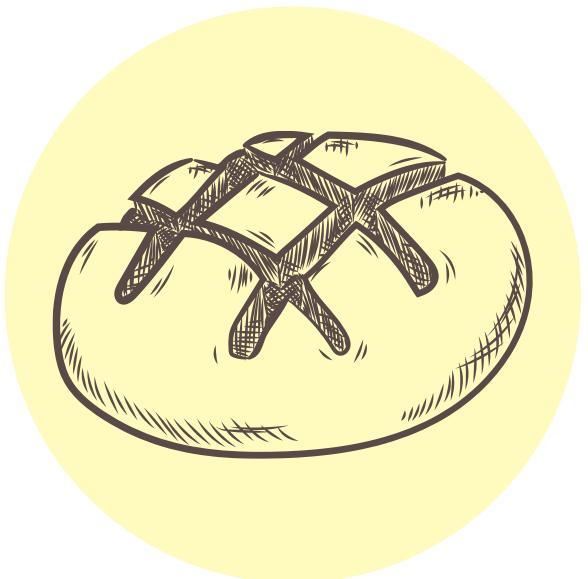
参加・対話の心理的ハードルを下げることで

多様な市民の市政参加を促進

→多様な視点が交わる対話を可能に



ひとりでは生まれない集合知形成に繋がる



問題意識

現状分析

政策提言

効果と展望

政策の効果

②議論の流れが政策づくりの参考材料になる



テキストマイニング
分析



行政から市民へ
フィードバック

生活者ならではの視点・考えが検討段階に加わる
集合知が政策の質を上げる重要な材料に

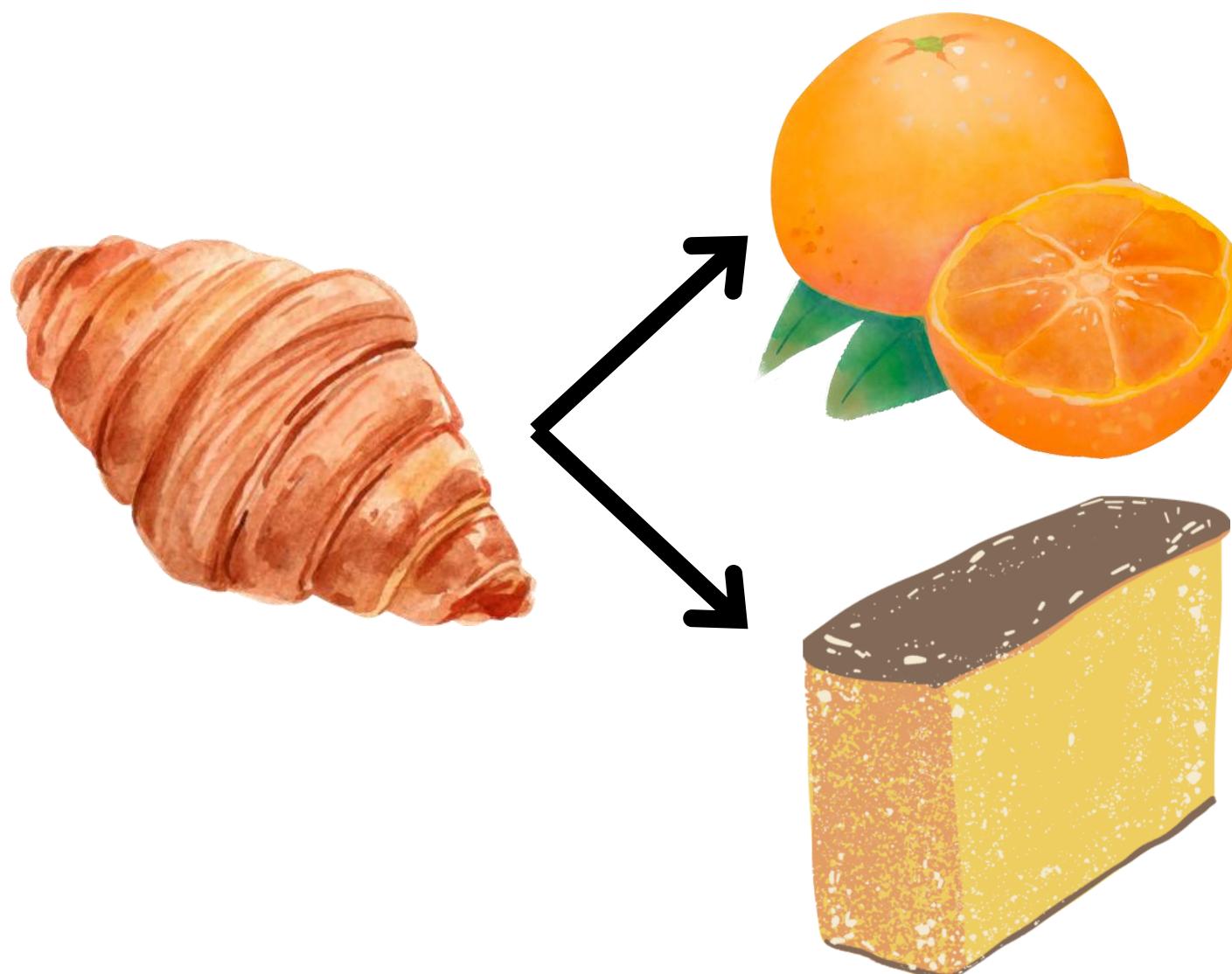
問題意識
現状分析

政策提言

効果と展望

今後の展望

パンを各地域の特色ある食文化に置き換える
→全国展開を可能に



「集合知形成の
京都モデル」
として拡大



参考文献

- ・ジェームズ・スロウイッキー『「みんなの意見」は案外正しい』角川文庫 2006年
 - ・令和元年度京都市第2回市政総合アンケート報告書
<https://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/cmsfiles/contents/0000264/264600/0202.pdf>
 - ・市民参加・市民協働—京都市 <https://www.city.kyoto.lg.jp/index.html>
 - ・京都市未来まちづくり100人委員会
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jappm/36/3/36_66/_pdf
 - ・Detroit Soup-Build Institute
<https://www.buildinstitute.org/fund/detroit-soup/>
- ・西条スープ公式サイト <https://sites.google.com/view/saijosoup/>
- ・“Breaking Bread: The Functions of Social Eating”R. I. M. Dunbar. (2017). P,198
 - ・KH Corder <https://khcoder.net/>
 - ・総務省統計局家計調査
<https://www.pref.kyoto.jp/tokei/monthly/tokeikyoto/tk2022/tkroom202203.pdf>
 - ・自主協定検討会報告書の概要
<https://www.env.go.jp/press/files/jp/2339.html>
(すべて2025年12月08日閲覧)